



蒲田交信局



こんにちは、営業部の浅井です。今回は「一生懸命頑張ったこと」について書きます。よろしくお願いたします。

小・中学校と野球をやっていたこともあり、高校に進学しても野球部に入るつもりでした。

ところが、入学式に正門の前で長ランにドカン、下駄を入れて無言で大きな校旗を支えている応援団に「男」を感じて一目惚れ(笑)

そしてそのあと行われた体育館での新入生歓迎会での部活勧誘。応援団のその硬派な印象からは想像できない、体を張ったギャグで体育館中を爆笑にってしまう笑いのセンス(笑)

「日本男児」+「笑い」という全く相反したその姿を見て、気付いたら部室のドアを叩いておりました(笑)

「日本男児」という言葉が死語となりつつある中、硬派な応援団は女子学生のみならずチャラチャラした男子学生にもモテましたが(笑)、世の中そんなに甘くはなく、練習はかなり厳しいものでした。

特に夏の合宿では、OBの先輩方のいじめのようなシゴキ(笑)、灼熱のアスファルトの上を手押し車で1km、馬跳びで1km、そして10km先の利根川までランニング、川の土手を利用しての腹筋100回×10セットなど…。正直、思い出したくない位の厳しさでした。

帰りはいつもどの部活よりも遅く（応援される運動部の方がよっぽど帰りが早かった）、声は枯れてガラガラ、通学電車の中で先輩に会えば周りの乗客が驚くほどの大声で挨拶したり、蒸し暑い夏場でも潮の吹いた長ランで過ごした高校生活はすごく濃かった3年間であり、一生懸命頑張った思い出です。

ちなみにそんな我が応援団も時代の流れなのか、「男」を極めたいという入部希望者が減り、現在女子学生が団長をしているようです。。



株式会社 城南村田 かわら版

蒲田交信局



皆様こんにちは。平素より株式会社 城南村田をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。4か月ぶりの寺田 匠児でございます。

今回は私の「失敗して忘れられないこと」について書きたいと思います。稚拙な文章ではありますが、どうぞお付き合いください。

私は高校時代、水泳部にフリーの選手として所属していました。入部1年目の水泳部員は4月に入部してたった4か月後の8月に行われる夏季都立高校水泳競技会への準備をしなければなりません。私はそれまで水泳選手としての経験があった訳でもないので、泳法のいろはから学ばなければなりませんでした。特にスタートの飛び込みは、人より身長が高いことと通っていた高校のプールが浅かったことが相まって、人一倍苦勞を強いられました(笑)

迎えた8月、泳ぎに関しては何とか形になり、恵まれた体格のおかげもあってか、タイムはそこそこの記録を出せるようになったのですが・・・問題はスタートの飛び込み。底の浅いプールではどうしても練習に限界があり、しかも本番の会場は水深180cmということもあって、なかなか自信が持てないまま本戦を迎えてしまいました。

競技会開催当日、開催場所は世界水泳なども行われる辰巳の国際水泳場。とても緊張しながら出番を待っていたことを今でも覚えています。

「とにかく飛び込みにのみ集中しよう」と自分に言い聞かせて迎えた初戦、飛び込み台から見えるのはただただ青く澄んだプールの水面と応援席から叫ぶように応援してくれている仲間たち。飛び込みに集中していた私はスタートの合図で一気に飛び込み、見事な着水を決めた瞬間にあることに気付きました…ゴーグルを掛けるのを忘れていたことに。

結果はもちろん惨敗。今考えれば、応援席から必死の形相で声を上げていた仲間たちは応援していたのではなく、おそらくゴーグルのことを伝えてくれようとしていたのだと思います(笑)

何かに集中し、他のことに気配りができなくなることは今でも私の悪いクセなので、いつでも心に余裕を持ち、いつ、どんなことが起きても落ち着いて対処できる人間になれるよう、自分を磨いてまいります。

今後ともよろしく願いいたします。